

「諏訪の殿さま」270年の歩み

諏訪市博物館

ゆかりの44点並ぶ特別展

諏訪市博物館（同市中洲）は、特別展「諏訪のお殿さま―歴代高島藩主諏訪家のもの・思い―」を1階企画展示室で開いている。諏訪家ゆかりの甲冑、絵図、絵巻物など、所蔵品44点を展示。歴代藩主の人物像の紹介パネルもあり、江戸幕府が開かれる前から明治初期まで約270年続いた諏訪家による安定した藩統治について知ることができる。9月23日まで。

（山本雄太）



諏訪家ゆかりの貴重な品々が並ぶ特別展「諏訪のお殿さま」

同館は、諏訪家から寄贈された貴重な史料を数多く所有。現在、市が湯の脇にある国史跡・高島藩主諏訪家墓所（温泉寺墓所）の整備を計画していることから、諏訪家や諏訪家墓所について広く知ってもらおうと企画した。

展示室には、高島城修復を江戸幕府に伺い立てるために描かれた修復絵図、諏訪家の家紋が入った藩主のものと思われる甲冑、藩主の印章など、諏訪家の貴重な品の数々が並ぶ。このうち、目を引く竹取物語絵巻や高さ50センチほどの大きなひな人形は、江戸幕府老中の松平定信の娘で、8代藩主諏訪忠恕正室の清昌院の嫁入り道具とされている。この他、初代頼水から10代

忠礼まで、藩主一人ひとりの人物像や政治姿勢、その時代の出来事などをパネルで紹介。『推し』の藩主にシールを貼る人気投票コーナーも設置した。同館は「諏訪家高島藩が長く続いたのは政治が安定していたことが大きい。10人の藩主がどのような人物か、どんな統治をしたのか知ってほしい」としている。

開館時間は午前9時～午後5時。月曜休館（祝日の場合

は翌日）。入館料は一般310円、小中学生150円。同展の展示図録（950円）も販売している。詳細は同館ホームページ参照。